

【タイトル】「月経困難症の既往が周産期のメンタルヘルスマネジメントに重要

～妊娠前に月経困難症であった女性は妊娠中も心理的ストレスが大きい～

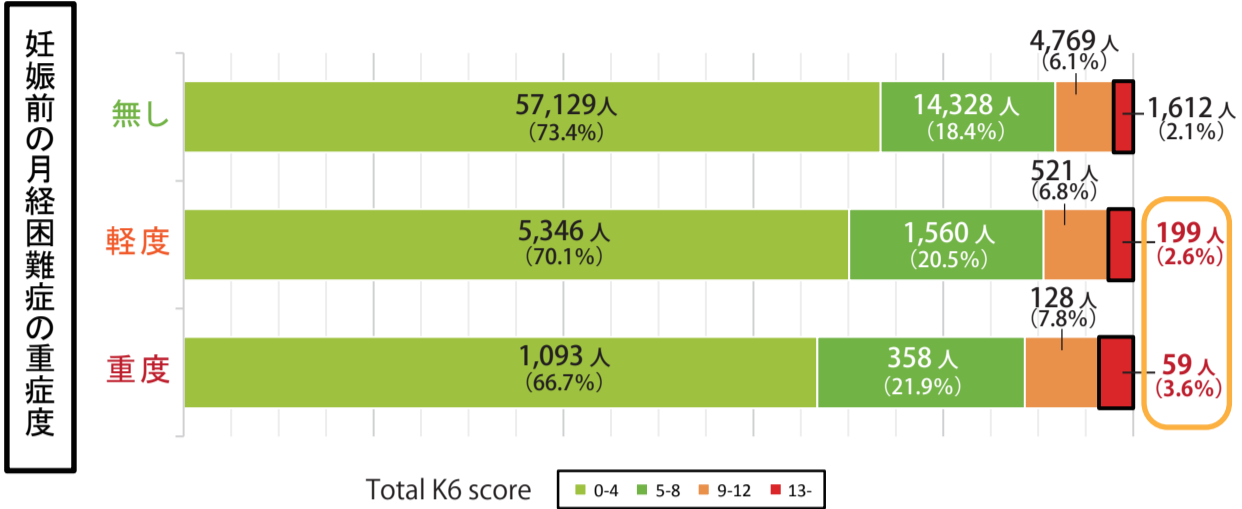
渡邊 善、目時弘仁 ほか（発表雑誌名：Jornal of Affective Disorder 2018年11月）

【目的・方法】

月経困難症は、多くの非妊娠女性が罹患し、症状から生活の質を著しく低下させる疾患で、近年においては増加傾向にある。身体的症状のみならず精神状態にも影響していることがよく知られており、周産期においては産後うつとの関連も示唆されている。妊娠初期～中期に精神的ジストレスを有していなかった妊婦 87,102 名を対象とし、その後妊娠中期から末期における精神的ジストレスの有無を調査し、妊娠前の月経困難症が関連しているか解析した。

【結果】

①妊娠前の月経困難症と妊娠中の精神的ジストレス



※月経困難症がなかった妊婦さんの精神的ジストレス罹患率 2.1%に対し、軽度及び重度の月経困難症を患っていた妊婦さんの罹患率は 2.6%、3.6%とそれぞれ高かったことがわかった。

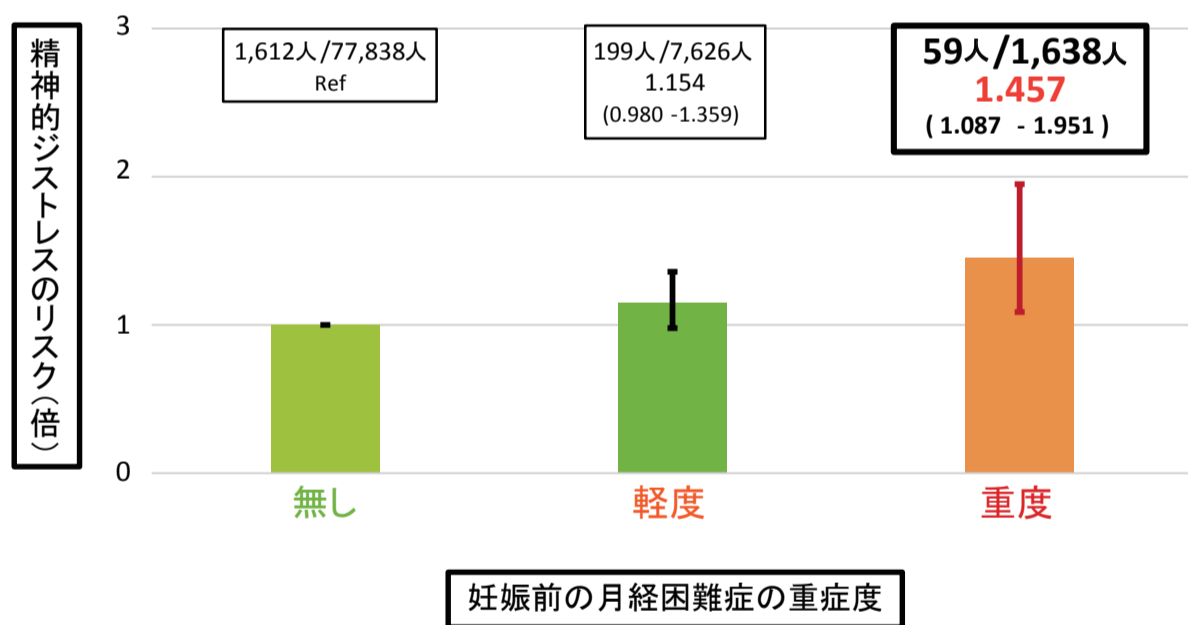
【月経困難症】とは

月経期間中に月経に伴って起こる病的な症状をいう。最も頻度の多い下腹痛の他、腰痛、腹部膨満感、嘔気、頭痛、食欲不振、憂うつなど様々な症状を呈する。またその症状の種類や程度には個人差がある。

【精神的ジストレス】とは・・・

耐え難い心理的な苦痛を感じている状態をいう。精神的ジストレス評価指標 K6 の点数が高いと不安障害や気分障害（うつなど）のリスクが高いとされている。本研究では、K6 の点数が 13 点以上を「精神的ジストレスを有している」と定義している。

②月経困難症の重症度と精神的ジストレスのリスク



※月経前の月経困難症は、妊娠中の精神的ジストレス（Total K6 score \geq 13）の罹患に関連していた。月経困難症の症状が重症なほど、妊娠中に精神的ジストレスを罹患するリスクは増大していた。

補正項目：母体年齢、妊娠前 BMI、初産、良性婦人科疾患既往（子宮内膜症、子宮腺筋症、子宮筋腫）、精神疾患既往（うつ病、不安障害、統合失調症、自律神経失調症）、胎児の数、婚姻状況、家計収入、本人とパートナーの教育歴、本人とパートナーの喫煙状況、飲酒状況、今回妊娠に対する気持ち、ネガティブライフイベントの有無、ソーシャルキャピタル関連の質問 1-8(Social capital-related questions 1-8)、妊娠初期～中期の total K6 score

【考察・結論】

妊娠前の月経困難症と妊娠中の精神的ジストレス発症は関連しており、特に妊娠前に重度月経困難症の既往のある妊婦では、その発症リスクはより高い傾向にある。

周産期のメンタルヘルスを考える上で、妊娠前の月経困難症の既往歴はこれまで以上に重要視する必要があると考えられる。